

和歌山県納税貯蓄組合総連合会会長賞



これからの日々

高野町立高野山中学校 三年 佐々木 菜那

今、私たちは何に困っている？夜道が真っ暗？ごみの処分方法は？このような悩みを持つこと自体少ないのではないだろうか。私たちは生まれた時から「日常が『あたりまえ』として片付いていて、それより不自由なことを想像するのは難しくなっている。しかし、今、困らないことは今まで困っている人がいて解決してきた。そして、今、困っていることは、多くの人が解決しようとしているのだ。

その中でも私たちの周りが安定し、安心できる大きな要素の一つは「税」だと私は感じている。「税金」というとどんなことをイメージするのだろうか。消費税を払うことなどへのマイナスのイメージだろうか？それとも公共サービスが使えることへの感謝？それぞれが思うことは違うだろうが、私は「税金」があることで今、とても助かっている。

私が住む町では、義務教育が終わるまでの医療費を助成する制度がある。私は小さい頃から喘息やアトピー、アレルギーを持っていて、その治療のために多くの薬を使っているその費用を換算すると、とても大きな額になるだろう。実際にその費用が自己負担だったとしたら、今の生活は大きく変わっていたかもしれない。私はこの制度を知った時、とてもありがたく、助かっているなと感じた。その頃から病院へ行ったり、救急車を見るたび、今までは漠然と感じていた「税金」というものを身近に感じ、意識するようになった。でもそれは、私にきっかけがあったからだ。生活している中で、税金を意識するのは買い物途中やニュースを見たときぐらいだろう。私はずっとそうだった。実際に税金の話を読めると、理解はできるけれど想像がつきにくくて、ぴんとこないことも多い。けれど、周りを見渡してみると、見つけるのは簡単だ。まずは、私たちに「一番関わりのある 学校」「義務教育」。公立なら、学校の校舎から教科書、机にいたるまで税金を使って作られている。そして、他にも医療費の助成や図書館など公共施設の設置にも使われている。こんな風に私たちの周りには多くの税があるのだ。周りを見渡すだけで、普通の日常がよく見えるようになり、意識も向けるようになる。

税は近くにあり、それがあたりまえとなっていて見えにくくなっているため、税のマイナスのイメージが浮き出やすくなっているのではないだろうか、と思うこともある。

そして、あたりまえを感謝するのは難しいし、少子高齢化や公債金の不安もあるだろう。それでも、今私たちが学校に通い、気が向いたときに公園や図書館に行ける。こんな日常を過ごせるのは本当に幸せだ。そしてこの日常を作っているのは「税」でありそのルールを決める「人」だ。私たちはこの日常を繋いでいく、またはよりよくしていくために、「税」について意識を向け、理解し、評論していく必要があるだろう。